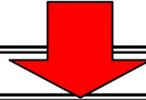


B-2 評価の工夫について

【 評価をどのように 】

- ・ 児童一人ひとりへのコメント（価値の押し付けになりはしないか…。）
- ・ 児童と担任の両者間だけで実施される評価だけなのか…。
- ・ 教室環境を整えることも、評価をしていくためには必要。
- ・ 児童の心(記憶だけではなく、形として)に残していければ…。
- ・ 保護者へ…。



【 取り組んできた評価の工夫 】

- ・ 児童一人ひとりの考えを受け止めたコメントを…。
(個に応じて書く。道徳の時間にねらいに到達していなくても良い。一つ一つの積み重ねがいつか実を結ぶことを信じて…)
- ・ 児童が改めて自分を見つめなおすことができるように…。
(道徳ファイル作成)
- ・ 友達がどんなことを考えたのかを知る機会を設定する。
(教室の環境整備)
- ・ 保護者にも児童が道徳でどのようなことを考え、成長してきたのかを見てもらう。
(児童へコメントを書いてもらう。保護者として、大人として、一人の人間として…)



教室の環境整備①



道徳ファイル作成

【 教室の環境整備と児童一人一人へのコメント 】



教室の環境整備②



個に応じたコメント

【保護者の反応～道徳ファイルを見て～】

- ・5年生になってから、1日1日を楽しんで生活しているなあと感じていました。このファイルを見て、その理由が分かったよ。目には見えないけれど、とても大切なことを感じとることができているんだね。Aの感想の中で「命はみんなに平等にあって決して二つや三つあるものではない。」というのがありました。お母さんは胸があつくなりました。だって、全ては命があるからはじまるのだから。うれしいこと。たのしいこと。おかしいこと。ありがたいこと。かなしいこと。つらいこと。くるしいこと。痛いこと。面倒なこと。沢山のことがあるね。命があるから感じとることができるんだよ。生きているということは、すてきなことです。人はみんな幸せになるために生まれてくるんだよ。一生懸命な「今」をつなげて素晴らしい未来をつくっているAをいつまでも見守っています。

(A児 保護者)

- ・一言一言が重みのある言葉として伝わってきました。言葉足らずではあるけれど、Bの一生懸命さ、一途さが手にとるようにわかります。道徳という貴重な時間に生命の尊さ、生きる意味、大切なことを学び、友達とそういう時間を共有できることが学校という空間の素晴らしさだと私は思うのです。今は、これが当たり前なのかもしれませんが、それが幸せなのだということを、多くの子ども達にわかってもらいたいのです。

(B児 保護者)

- ・今回このワークシートを見て、道徳の授業風景が見えるようです。子ども達の心の成長を感じ取れます。最後に私のメッセージとして、ある方の言葉の受け売りですが、「精力善用」「自他共栄」「継続は力なり」「ボーイズ・ビー・アンビシャス」などの言葉を心の支えとしていることに、一生懸命生きていてほしいと願います。

(C児 保護者 ～一部抜粋～)

- ・黄色のファイルを読ませていただきました。1回目の授業参観の道徳で「あやちゃんの贈りもの」でしたね。私にとってもとても印象的な授業内容でした。先生が子ども達に、「もし自分が白血病で残りわずかな命で自分はどのように生きるか？」という問いに次々と子ども達が思い思いの「生きる」を答えていました。私の娘も力強く「今を一生懸命に生きる。」と答えていました。今まで、「生きている」ということは当たり前だと思っていた子ども達にとって、この授業で学んだことは子どもの心の成長につながる大切なものだと思います。ファイルの中で「クラスの中の自分」での娘の感想で、「いろいろな所で皆が自分を支えてくれている。」で友達のことや思いやる気持ちを持てるようになったんだと嬉しく思えました。今後もこのような授業を通じて子ども達の「心」の成長が楽しみです。

(D児 保護者)